# 石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第318号　平成22年4月1日発行

俳諧百一首図幅（右第六幅　左第十二幅）

## 書院を飾るⅡ　－絵画と調度－　　前田育徳会尊經閣文庫分館

## 加賀の俳人たち　－軽妙な俳画の世界－　　第2展示室

## 第66回　現代美術展

- 企画展 Topics
- 平成21年度のコレクション展示室を振り返って
- 今年度も目白押しの当館行事
- この春各地で注目の展覧会
- 展覧会回顧　－移動美術展－
- ミュージアムレポート
- 友の会の皆様へお知らせ
- 平成21年度の新収蔵品について
- ミュージアムショップ通信

## 前田育徳会尊経閣文庫分館

# 書院を飾るⅡ

## －絵画と調度－

**4月1日（木）～4月20日（火）**
**会期中無休**

かつての加賀藩主、前田家に伝えられた数々の美術工芸品を公開展示する、前田育徳会尊経閣文庫分館の春の特集展示として「書院を飾る」を紹介します。加賀百万石という大藩の藩主としての格式とも言える「文武両道」の精神を、感じ取っていただければと思います。

大名の公式行事に用いられた広間には、床の間・違い棚・付書院といった、さまざまな道具が飾られる専用の空間が備えられていました。これらの飾り付けに用いられた花生・香炉・文房具などの品々は、いずれも貴重な品ばかりでした。また床の間には大幅の絵画が飾られ、いかにも大藩の藩主の持ち物にふさわしい今回の展示をご堪能いただければ幸いです。

### 七宝花菱蒔絵花台

箱書に「御花臺　果李蒔繪花輪違／元禄九丙子暦二月十五日御拝領之／御花入被居之為御用被仰付之」とあることから、元禄九年（一六九六）に徳川家より拝領した花入を置くために作られた花台であることがわかります。

木地は花梨を使用しており、漆下地を施さず、直接上面に花菱に七宝繋の文様を蒔絵で施した木地蒔絵で、側面には同じく蒔絵で唐草文様が描かれています。制作年代が明らかなため、近世の漆工資料としても貴重な作品となっています。

七宝花菱蒔絵花台

## 第2展示室

# 加賀の俳人たち

## －軽妙な俳画の世界－

**4月1日（木）～4月20日（火）**
**会期中無休**

第二展示室では、先月に引き続き特集展示「加賀の俳人たち－軽妙な俳画の世界－」を開催します。今号の美術館だよりでは、展示作品の中から『俳諧百一首図幅』についてご紹介します。

「歌に百人一首あり、連歌に連歌仙あり」と述べ、それに習い著名な俳人百人の肖像とその句を記した『俳諧百一集』を著したのは、越中国の俳人・康工です。明和二年（一七六五）に京都で刊行され、またたく間にベストセラーとなった本書には、北枝・万子・秋之坊・千代尼・珈涼・麦水・闌更・希因など、加賀の俳人も多く紹介されました。

その後、これら百人の俳人の姿と句を、六曲一双の屏風として仕上げたのが、八代梅田九栄です。加賀藩の御用絵師であった九栄はまた、年風と名乗る俳人でもありました。屏風は複数ありますが、今特集では、屏風仕立てを意識した十二幅から成る軸装作品を紹介します。

狩野派に学んだ年風ですが、ここでは軽妙な筆致で人物を描き出しています。はじめに『百一集』で選ばれなかった蕪村を描き、「順礼の目鼻書ゆく瓢かな」の歌を記します。加賀の女性俳人として知られる千代尼（尼素園）と珈涼の姿を向かい合うように描いているのも、興味深いところです（写真）。同時代を生き、対称的な歌を詠んだ二人だからでしょうか。「落てるや日に日に水の恐敷」（千代尼）、「めい月や掃とも〳〵松の陰」（珈涼）の歌が添えられています。百人それぞれの俳人の姿を、歌とともに楽しむことのできる、温かみのある作品です。

俳諧百一首図幅（部分）

企画展 Topics

# 石川県立美術館の半世紀の歩み

**4月25日(日)～5月16日(日)**
**会期中無休**

石川県立美術館は昭和三十四年に開館した石川県美術館を母胎として、規模を拡大し、設備を充実させて昭和五十八年に現在の地に開館しました。また平成十九年から二十年にかけて約一年間休館し、バリヤフリー化や収蔵庫の増設など大規模な改修をおこない、さらに親しみやすい美術館として再出発しました。この五十年間、石川県立美術館は、文化立県を標榜する石川県における美術工芸の伝統をふまえ、豊かな美術文化の創造と推進をはかる拠点として、全国的に注目される展覧会を開催するとともに、地域文化の集積として特に藩政期から現在に至る石川県ゆかりの美術工芸品や、日本美術史上注目される作品を収蔵してきました。そして美術品の収蔵点数は旧館開館時の十倍以上となる、総計三千点をこえるまでに充実しました。

「石川県立美術館半世紀の歩み」と題した本展は、石川県立美術館の所蔵品の中から、県民に広く愛好され、また全国的な評価も高い秀作を約二百五十点選りすぐり、企画展示室三室と、前田育徳会　尊經閣文庫分館を除くコレクション展示部門の全展示室を活用し、一挙に公開するものです。数年間のサイクルでようやく全貌をご覧いただくことができる名品・名作の数々を、古美術、近現代工芸、近現代純粋美術のジャンルごとに一度に鑑賞できるまたとない機会です。本展の開催をとおして、地域に根ざした美術館として今後のさらなるご理解とご支援をいただければ幸いです。

重文　秋月等観　西湖図

# 第66回現代美術展

**四月三日(土)～二十日(火)　会期中無休**
(第3～9展示室)

文化功労者、日本芸術院会員、人間国宝らの委嘱作品をはじめ、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の六部門で寄せられた一般公募の力作が一堂に展示されます。

**部　門**　日本画(第8・9展示室)
写真　(第7展示室)
彫刻　(第3展示室)
工芸　(第4・5・6展示室)
金沢21世紀美術館では洋画・書が展示されます。

**入場料**　(金沢21世紀美術館と共用)

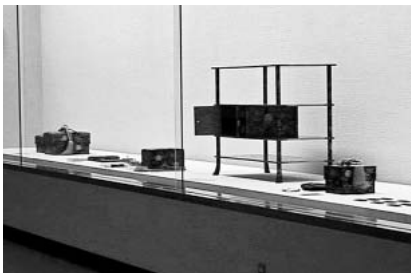
| | 一般 | 大高生 | 中小生 |
|---|---|---|---|
| 当日 | 一〇〇〇円 | 六〇〇円 | 五〇〇円 |
| 前売り | 九〇〇円 | 五〇〇円 | 四〇〇円 |
| 団体 | 八〇〇円 | 四〇〇円 | 三〇〇円 |

団体は二〇名以上

**開館時間**　午前九時三〇分～午後六時
毎週金曜・土曜日は午後八時まで開館

※当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

# 平成21年度の
# コレクション展示室を振り返って


大名夫人の調度

コレクション展示室では、展示にあたって月ごとにテーマを設け、さらに八本の特別陳列と十四本の特集展示を行いました。

前田育徳会尊經閣文庫分館では、特別陳列として「国宝　北山抄」などを行いました。『北山抄』は藤原公任の手になるもので、朝廷で行う祭事、朝儀、四季の行事に関する形式などを研究する有職故実の一つです。源高明の『西宮記』、大江匡房の『江家次第』とともに「後世の亀鑑」と仰がれ有職故実の書の中でも別格扱いとされました。本展ではその三書をそろえて公開できたことに加え、北陸大学教授長谷川孝徳氏による有職故実の講演会もあって、鑑賞者には平安時代以来の儀式に関して理解が深まったものと思われます。

また「本阿弥光悦の手紙」では、加賀藩の重臣今枝氏に宛てた二十三通の手紙を公開しました。当館の嶋崎丞館長による光悦と加賀藩との関わりを示した講演会には大勢の人が訪れました。

親子でつむぐ22の物語

「大名夫人の調度　婚礼調度を中心に」では、前田家十三代藩主斉泰に将軍家より嫁いだ溶姫が持参した婚礼調度を公開しました。溶姫を迎えるために建てられた御守殿門が、現在東京大学にある「赤門」です。婚礼に際して江戸城からその門まで溶姫の通った道筋をたどり、屋敷内の書院にその調度が納められた様子や、後年金沢城へどのようなルートをとって入ったかといった内容で、郷土史家野村昭子氏による講演会を行いました

第2展示室では、日本の色絵陶磁器の流れを紹介する「色絵の系譜」と久隅守景展にあわせて室町から江戸初期の山水、花鳥、人物をテーマとした「狩野派の誕生」の二本の特別陳列と「浮世絵」「加賀の俳人たち」などの特集展示を行いました。

近現代美術では、「染めの変遷」と「動物彫刻」という二つの特別陳列のほか、第3展示室で十二月と三月に「田井淳－無限の中へ」「三浦泉展」という二つの特集展示を開催しました。一九五〇年代生まれで現在も活躍中のお二人に、その制作の軌跡を語っていただく講演会も開かれました。

動物彫刻

恒例の夏休み親子で楽しむ美術館のテーマは「親子でつむぐ二十二の物語」としました。絵画・彫刻・工芸の分野から物語性やテーマ性の高いものを選び、親子で作品を前に対話を繰り広げられるような内容を意識しました。用意されたセルフガイドや作品キャプションをもとに、参加された親子の皆さんにはたくさんの物語が生まれたようでした。

コレクション展示室へは毎月の第一月曜日に無料入場できるという情報が、次第に皆さんに広まってきており、これらの展示にも多くの人に鑑賞いただきました。

# 今年度も目白押しの当館行事

共通連続したテーマを希望される方が多かったことから、昨年度の講座は十三回シリーズで「日本美術史」をとりあげました。絵画・彫刻・工芸の分野ごとに歴史をたどりましたが、回を重ねるごとに受講者が増え、とても好評でした。こうした方針を引き継ぎ、本年度は年間を通したテーマを「石川の美術」としました。

ゴールデンウィーク明けの五月八日に第一講を行い、夏休みと年末年始などを除くほぼ毎週土曜日の午後、全三十回を予定しています。詳細は次号以降でお知らせしますが、本年度開催予定の「石川県立美術館の半世紀の歩み」「加越能の美術」という企画展とも関連づけて、石川に伝わる古代・中世の美術から最近年の美術までを、時代・作者・作品などの切り口でテーマごとにとりあげます。

二年目を迎える加賀百万石の文化講座は、昨年と同様に日曜の午後に開催します。「藩主所用の甲冑」や「芳春院の古典文学」など前田育徳会尊経閣文庫分館の展示にあわせ、前田家、加賀藩、尊経閣文庫を紹介する四回の講演会を計画しています。

映像ギャラリーは、ビデオ鑑賞会を十五回ほど行います。日曜の午後、「日本の美」のシリーズから毎回二本ずつ上映します。秋以降来年度に掛けては「世界・美の旅」シリーズ（全三十タイトル）でルノワールやセザンヌなどを紹介していきます。

小学生対象のキッズ☆プログラムは、絵画・彫刻・工芸などの鑑賞講座を五回、日曜の午後に行います。また夏休みには、学年別に制作体験講座を予定しています。この体験講座だけ事前の申し込みが必要となります。詳しくは、六月号の美術館だよりでご案内します。

ほかに石川県移動美術展や学校出前講座も行います。大勢の方々のご参加をお待ちしております。

# この春各地で注目の展覧会

## ◆京都

### 「没後四〇〇年　長谷川等伯」

四月十日(土)～五月九日(日)
京都国立博物館　特別展示館
京都市東山区茶屋町五二七
ＴＥＬ　〇五七－五二五－二四七三

国宝「松林図屏風」「楓図壁貼付」など国宝三件、重文三十件を含む約八十件が集結。ずらりと並ぶ等伯を一堂に鑑賞できる機会は滅多にありません。

## ◆静岡

### 「伊藤若冲　アナザーワールド」

四月十日(土)～五月十六日(日)
静岡県立美術館
静岡市駿河区谷田五十三－二
ＴＥＬ　〇五四－二六二－三七三七

近年、華麗で独自な色彩感覚でその名を広く知られるところとなった伊藤若冲。本展はその若冲が生涯描き続けた水墨作品を中心に紹介するものです。

## ◆東京

### 開館記念展「マネとモダン・パリ」

四月六日(火)～七月二十五日(日)
三菱一号館美術館
東京都千代田区丸の内二－六－二
ＴＥＬ　〇三－五七七七－八六〇〇

パリのオルセー美術館が共同企画する本展は、マネ作品をまとまった形で見ることのできる貴重な機会です。明治期の原設計から忠実に復元された美術館の建物とともに楽しめます。

# 平成21年度 移動美術展

**会期：2月19日（金）～2月28日（日）**

毎年開催している移動美術展は、本年二月十九日から二十八日まで、白山市で開催されました。会場は、白山市鶴来総合文化会館［クレイン］で、二階の研修室三室と通路に沿って設置されているガラスケースに作品を展示しました。研修室には、空間を仕切る移動壁面や平面の作品を展示するためのフック、ワイヤーが備えられており、改めて仮設のパネル等を設置する必要がなく、展示作業はスムーズに行うことができました。地元ゆかりの作家や、石川県を代表する作家の作品など五十三点を展示した中で、今回はガラスケースが使用できたことで、陶芸・漆芸・染織・金工・木竹工・人形などの工芸作品、さらには日本画の屏風作品も陳列することができ、バラエティーに富んだ内容になったといえます。

白山市といえば、白山麓から日本海にかけての広大な地域を含むため、会場までお越しいただくのにご不便をおかけした方々もいらっしゃることと思いますが、会期中は約一三〇〇人の方々にご来場いただき、まことにありがとうございました。またその中で、五〇〇人を超える小中学生の皆さんに熱心にご鑑賞いただき、今後も芸術に親しんで、豊かな感性を育んでいっていただきたいと念願しています。

最後に、本展の開催にあたり、種々ご協力いただいた関係の方々に改めてお礼申し上げます。

## ミュージアムレポート

三月七日（日）、今年度最後のキッズプログラム、『工芸王国のひみつをたんけん！』では、近現代の工芸の展示室をたっぷり鑑賞していただきました。工芸王国といわれる石川県でも、生活に使う「工芸品」といわれるものが見当たらない家庭も増えてきているようです。そこで今回はまず工芸の事を知ってもらうために、作品をよく見てもらえるよう工夫をしたクイズ形式を取り入れ、作品の種類やその特徴を学びました。子どもたちは、クイズが大好き。みんな本当に作品をよーく見てクイズの答え探しに挑戦してくれ、ほとんどの子どもたちが正解のはんこ六個全部をもらいました。

雨が降るあいにくのお天気でしたが、毎回ご参加の方に加え、久しぶりの方、初めての方と、大変たくさんの方々でプログラムを開催することができました。ご参加頂いた皆様、ありがとうございました。来年度も、楽しいキッズプログラムをご用意して、皆様のお越しをお待ち申し上げております。

## お知らせ

四月中、土曜講座・講演会・ビデオ上映等、当館主催の行事は予定されておりません。

友の会へご入会いただき、ありがとうございます

# 友の会の皆様へお知らせ

## 第八回美術館バスツアー「近くて遠い福井の旅」

今回のバスツアーは近くにありながら、ちょっと足を伸ばせない、そんなお隣福井県を旅します。福井は文化財や庭園の意外な穴場。今回も新しい発見があるかも知れません。

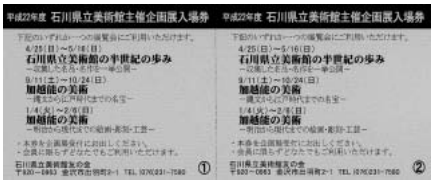
**開催日**／五月二十三日（日曜日）
**参加費**／七千円前後を予定
**見学先**／福井方面
**見学地**／瀧谷寺、一乗谷朝倉氏遺跡、福井県立美術館その他を予定しています。

※詳細は次号に掲載いたします。

## 企画展示室入場券について

今年度の企画展示室入場券（本号に同封）は、二回分のご利用がいただけるようになっております。

お一人様での複数回利用やお連れ様とご一緒のご利用など、必要に応じてご活用下さい。




## 二十一年度収蔵品について

平成二十一年度末現在の当館所蔵作品数の内訳は次のとおりです。尚、新収蔵品の作品リスト、画像等の詳細は次号に掲載する予定です。

| 学芸分類 | 20年度末 | 21年度新収蔵品 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 1．陶磁 | 596 | 1 | 597 |
| 2．漆工 | 251 | 2 | 253 |
| 3．染織 | 304 | 3 | 307 |
| 4．金工 | 77 | 0 | 77 |
| 5．刀剣・甲冑 | 139 | 2 | 141 |
| 6．木竹・人形・その他の工芸 | 80 | 2 | 82 |
| 7．日本・東洋画 | 342 | 2 | 344 |
| 8．油彩画 | 568 | 29 | 597 |
| 9．水彩・素描 | 145 | 0 | 145 |
| 10．版画 | 42 | 0 | 42 |
| 11．彫塑 | 299 | 8 | 307 |
| 12．書 | 106 | 0 | 106 |
| 13．考古・歴史 | 4 | 0 | 4 |
| 14．ガラス | 74 | 0 | 74 |
| 合　計 | 3,027 | 49 | 3,066 |

## 次回の展覧会

**1F 企画展示室・2F 第2～第6展示室**

石川県立美術館の半世紀の歩み
―収集した名品・名作を一挙公開―

**前田育徳会尊經閣文庫分館**

旧前田邸を飾った近代絵画

**会期：四月二十五日(日)～五月十六日(日)　会期中無休**

## 企画展 Topics
## 「石川県立美術館の半世紀の歩み」《作品紹介》

平成22年4月25日(日)～5月16日(日)

鴨居 玲　蛾と老人

松田権六　蓬莱之棚

重文　伝清水九兵衛　蒔絵和歌の浦図見台

板谷波山　チューリップ

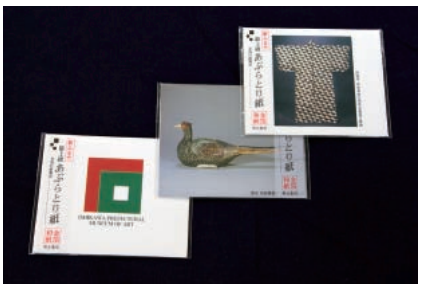
重文　野々村仁清　色絵梅花図平水指

吉田三郎　山羊を飼う老人

## ミュージアムショップ通信

三寒四温を通り抜け、木々の芽吹きに春の訪れを感じます。

さて、今回登場するのは「あぶらとり紙」です。金箔打紙製法で作られたふるや紙のあぶらとり紙は、今や金沢の名産品の一つ。最上級の吸脂力が実感できます。これからのシーズン、お土産や行楽のお供にどうぞ。



最上級あぶらとり紙　各種30枚入り350円

### ご利用案内

**コレクション展観覧料**
一　般　350円(280円)
大学生　280円(220円)
高校生以下　無料
※(　　)内は団体料金

**今月の開館時間**
午前9:30～午後6:00

**カフェ営業時間**
午前10:00～午後7:00

石川県立美術館だより　第318号
2010年4月1日発行〈毎月発行〉
〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580　Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

**4月の休館日は**
**21日(水)～24日(土)**